
第17回 通常総会 議案書

日 時 2024年2月18日（日）15時00分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長あいさつ
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
 - 第1号議案 2023年事業活動報告
 - 第2号議案 2023年活動決算報告、監査報告
 - 第3号議案 2024年事業活動計画
 - 第4号議案 2024年活動予算
 - 第5号議案 役員補欠選任の件
5. 議長退任
6. 閉 会

第1号議案 2023年事業活動報告（2023年1月1日～12月31日）

設立から16周年を迎えた2023年は、コロナ禍も過去のものとなり、少しずつ日常を取り戻せた過渡期となりました。何より故吉岡前理事長亡き後のスタートとなりましたが、会員の皆様や各方面からの多くのお力添えを賜り、以下報告する各事業の取り組みの活発化、また参加者の増加を見ることができました。これも当NPOの長年にわたる活動の成果とも言える日本遺産「炭鉄港」の認知度向上と、地域における歴史文化に即したまちづくりの正統性が評価されつつあると感じると共に、新たなファンを招き入れてくれているものと考えています。

以下、事業ごとに2023年の活動についてご報告いたします。

※活動計画に対する達成度：○=達成 △=途上 ×=未了

※拠点の略称：MC=マネジメントセンター、CM=夕張市石炭博物館

■出版事業

×できませんでした

■動画配信事業

○2022年に実施したぷらぷらまち歩きを振り返り配信を9本と、吉岡前理事長の追悼番組を1本実施した。この他に炭鉄港検定事前WEB講座3本、炭鉄港ニュースタ張編5本などを配信し、新たなファンの獲得に繋がった。チャンネル開設後、視聴回数2万4千回超え、登録者数350名弱となっています。

■炭鉱遺産事業

○「ぷらぷらまち歩き」を実施、有料（会員500円、一般1,000円）予約不要、定員なしとして全15回、延べ人数444名参加（特別企画9/17JRレールセンターの回を入れると延べ464名）炭鉄港推進協議会に加入した江別市での開催の他、室蘭アートプロジェクトとコラボした企画、会員ガイドによるコースなどもあり、各地で多彩なまち歩きが実施できました。

○奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み

奔別炭鉱敷地公開

5/3から5/5 全3回、延べ408名参加。このうちガイドツアー（300円）参加者209名
8/5から8/15 全5回、延べ413名参加。このうちガイドツアー（300円）参加者182名
草刈りなどの周辺整備を実施。住友が三笠市に立坑櫓を譲渡する事となり、三笠市とNPOとホッパー側の敷地所有者ホッコンで、今後の活用方法や無断侵入の対策など話し合いをしています。

○7/29「炭鉱の灯り」 旧三笠駅舎・跨線橋周辺で実施

○各種活動団体等との連携強化

炭鉄港に関係する団体との取り組みが増えています。

- 2月 日本遺産認定地域「銀の馬車道・鉱石の道」連携と交流事業に参加
- 9月 炭鉄港推進協議会と、いわみざわ情熱フェスティバル「炭鉄港めしフェスタ」に出店
- 9月 空知シーニックバイウェイ 審査団視察訪問
- 9月 炭鉄港推進協議会、ノーザンクロス他、「未来へつながる炭鉄港魅力発掘事業」講座等依頼
- 9月 炭鉄港バス停サイン検討会
- 10月 全国町並みゼミ小樽大会 分科会にパネリスト参加

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続に向けた取り組み

- 4月 太田清澄氏と島津忠裕氏の2名が当事業団の顧問に就任
- 5月 島津興業社長が来岩。今後の取り組みについて意見交換
- 9月 平野理事長が鹿児島訪問。今後に関する協議

○地域シンクタンクとしての展開

- 11月 太田顧問講師による「まちづくりゼミ講座」2024年3月までに5回開催 受講者16名
- 11月 シビックプライド探求部による「まちづくりゼミ」3回開催
- 11月 「聴く 炭鉄港」ピアノコンサート開催
- 12月 「学ぶ 炭鉄港フォーラム」開催

○教育機関との連携

炭鉄港に対する注目度も増してきており、出前授業や現地見学の実施、相談なども受け、教育分野での活動も活発化しています。

- 5月 岩見沢市立中央小学校6年生 駅周辺フィールドワーク 60名
- 5月 郁文館高等学校 駅周辺ガイドと講演 35名
- 6月 岩見沢市立第一小学校5年生 駅周辺ガイド 60名
- 7月 北海道視聴覚支援学校中学部 訪問 5名
- 7月 岩見沢市立清園中学校1年生 講演と駅周辺ガイド 54名
- 8月 岩見沢市立緑陵高等学校放送部 ガイド 5名
- 9月 岩見沢市立東光中学校 講演と万字線沿いフィールドワーク 102名
- 10月 岩見沢市立日の出小学校4年生 訪問 50名
- 10月 奈井江中学校1年生バス見学ツアーガイド 39名
- 10月 岩見沢市立明成中学校1年生 訪問 5名
- 10月 岩見沢市立清園中学1年生 駅周辺撮影ガイド 2名
- 10月 岩見沢市立北真小学校4年生 万字ズリ山ガイド、駅周辺ガイド、講演 16名
- 11月 岩見沢市立中央小学校 万字ズリ山ガイド 57名
- 11月 岩見沢市立清園中学校 講演 54名
- 11月 岩見沢市第一小学校 訪問 40名

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携

様々な団体や場所での依頼が増加傾向にあります。

- 5月 岩見沢市観光協会・岩見沢FUバスケットチーム 訪問10名
- 6月 岩見沢市観光協会よりカメラ女子 訪問14名
- 8月 全道議長会研修 炭鉄港講演 250名
- 9月 JRヘルシーウォーク駅周辺ガイド 30名
- 9月 岩見沢市情熱フェスティバルに2日間出店 石炭重さ当てクイズには247名が参加
- 9月 岩見沢市内町会連絡協議会 講演20名
- 10月 早来柏会 講演とガイド26名
- 10月 岩見沢市内民生委員駅周辺ガイド38名
- 10月 全国町並みゼミ小樽大会・台湾視察団バスツアーガイド30名
- 11月 北海道青少年科学館連絡協議会 講演とフィールドワーク9名

○国内外の関係者・団体への対応

炭鉱や《炭鉄港》について問い合わせや取材など、多様なアクセスがあり、これに積極的に対応しました。

- 2月 FMはまなす出演
- 2月 佐賀県庁政策課ヒアリング
- 3月 JR東日本「大人の休日」取材
- 4月 石炭パン制作相談
- 7月 NHK番組取材 奔別同行
- 7月 朝日炭鉱跡地 岩田地崎建設 相談
- 8月 札幌ストリームホテル 炭鉱めし相談
- 9月 北海道総合計画ヒアリング
- 9月 札幌天神山アートスタジオより韓国人アーティスト 訪問
- 9月 アドベンチャートラベル関係の韓国視察団 訪問
- 11月 無印良品関係者 炭鉱オブジェ展示相談
- 12月 銀の馬車道鉱石の道関係者視察来道時に理事長同行・意見交換会

■拠点活動事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実

マネジメントセンター入館者 2023年1月～12月 4,446名（2020年4,243名、2021年2,785名、2022年4,773名）

炭鉄港カード配布、炭鉄港めしスタンプラリーポイントになるなど、炭鉄港の発信拠点として重要な位置づけとなっている。7月に限定「石炭カヌレ」を販売。打ち合わせ場としての利用や気軽な立ち寄り場所、休憩などにも使われています。

×会員による運営支援の試行

実施できませんでした

○石蔵での企画

4/19～5/31 岩見沢三十六景スケッチ画展

6/3～6/25 撮りフェス in 室蘭 2022 受賞作品展

7/17 石蔵ライブ

7/26～9/30 北海道遺産巡回写真展

○その他

3月「第二回炭鉄港検定」と炭鉄港講演 実施（受検者岩見沢 22名/室蘭 4名）

7/5～11/30 イオン岩見沢店 2階にて第一弾写真パネル展「岩見沢の鉄道と炭鉱の歴史」

（スタッフ解説 3回、ギャラリートーク 1回 30名、万字線の座談会 1回 20名）

12/6～3/末 イオン岩見沢店 2階にて第二弾写真パネル展「ここにも？あれも？炭鉄港」

■ヘリテージツーリズム事業

△東武トップツアーズ、炭鉄港推進協議会等から、炭鉱跡地ガイドツアーやまち歩きツアーの企画相談を受けました。

■石炭博物館事業

○指定管理業務の着実な実施：

2023年シーズンは、2022年11月の吉岡前館長の急逝に伴う運営体制の見直し並びに、石炭博物館の新たな5年間の指定管理者受託の初年度となりました。また、2022年シーズンまでのウィズコロナからアフターコロナへの機運が高まった年でもあり、観光客の動きも活発化することが期待されました。

館の運営においては、昨シーズンに続きコロナ禍による休館はなく、シーズンを通じた開館ができました。事業計画時点では、コロナ禍の動向や模擬坑道修復工事の状況など、先行きの見えない事柄もありましたが、昨シーズンの観光動向の回復基調を踏まえ、有料入館者数の目標は17,800人（2022年の有料入館者数の1割増）としました。

それに対して、入館者数は16,100人（うち有料は15,321人）、1階無料展示だけで帰る無入館を含めた来館者数は17,984人であり、上記目標を13.9%下回りました。この状況は、観光需要の復活拡大傾向の中で、多様な観光資源への分散が進んだことに加え、模擬坑道再開の延期による夕張来訪意向の相対的低下が生じた可能性が考えられます。

そのような厳しい状況ではありましたが、2020年から継続している各種の環境整備の取り組みや、石川館長ほか理事（平野・大橋・酒井）による交替助勤体制、夕張市の地域おこし協力隊員1名の派遣の継続により、指定管理業務の着実な実施体制を継続しました。

一方、入館者数の伸び悩みを踏まえた勤務体制のスリム化（シルバー人材センター勤務なし日の設定など）による運営コスト削減にも取り組みました。

○博物館の質的充実に向けた展開：

特別企画展「炭鉄港 リ・スタート」に加え、「つどえ、始まりの学び舎へ」を通期で開催したほか、

お盆や秋季の「館内無料ガイドツアー」の実施、短冊に託す「七夕の願い」、落ち葉でつくる「パペットゆび人形」など、石炭、夕張、炭鉄港の情報発信拠点として多様な取り組みを開催することができました。

その他、各種団体等の催事への参加・協力（下記）を通じて、博物館及び夕張の広報・PR に取り組みました。

<催事>

- ・「シューパロ湖 アイスカルーセル」イベント受入（2/11）
- ・「夕張メロンラン」協力：景品/入館券提供、参加者入館割引（7/9）
- ・「炭鉄港カード」第3弾の配付（7/26～10/29）
- ・「南そらちPTA 連合会研究大会兼夕張市PTA 連合会研究大会」（11/3）
- ・「聴く炭鉄港」大山泰輝ピアノライブ（11/19）

<取材>

- ・JR 東日本「大人の休日倶楽部」（3/31）
- ・毎日新聞「学芸員とっておき秘話」（4/19）
- ・BS フジ「ガリレオ X」（4/22）
- ・北海道 Likers「炭坑の歴史を案内する・地下展示室の人形たち」（8/19）
- ・全日空「ANA SKY WEB」（11/15）

■会務

△会員サービスの充実

会員限定の動画が視聴できる設定をしました。イベント等での会員価格の設定。交流会等を模索していましたができませんでした。

△企業賛助会員の拡大

積極的に企業周りにはできませんでした。増える傾向になっています。

○会員数

2023年12月末 総数=379名（昨年より36名増加・2022年末343名、2021年末344名）

運営会員=58名（昨年より5名増加・2022年末53名、2021年末51名）

一般会員=293名（昨年より27名増加・2022年末266名、2021年末269名）

賛助会員=28社（昨年より4社増加・2022年末24社、2021年末24社）

○新たな経営戦略と運営体制の検討

それぞれの経験と知識を活かし、分担して業務を行う事ができた。

その他

1月 「吉岡宏高さんを偲ぶ会」開催

第2号議案 2023年度活動決算報告、監査報告

2023年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録
2023年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	585,019	
郵便振替口座	1,262,699	
普通預金 ゆうちょ銀行	1,155,142	
普通預金 北洋銀行	1,835,949	
普通預金 空知信用金庫	156,695	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 北洋銀行〔石博〕	4,384,961	
現金・預金小計	9,389,814	
貯蔵品	252,188	
前払費用〔家賃〕	150,000	
未収収益〔模擬坑道電力料〕	361,973	
流動資産合計		10,153,975
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,565,953	
有形固定資産小計	215,169	
敷金	50,000	
出資金〔空知信用金庫〕	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		315,169
資産合計		10,469,144
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金〔電力料・社会保険他〕	1,073,784	
未払費用	546,328	
預り金	510,855	
未払い法人税	822,800	
未払い消費税	707,800	
流動負債合計		3,661,567
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		3,661,567
III 正味財産の部		
正味財産合計		6,807,577

2023年 その他事業会計 財産目録

2023年12月31日現在

該当事項なし

2023年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表
2023年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	585,019	
普通預金 ゆうちょ銀行	1,155,142	
郵便振替口座	1,262,699	
普通預金 北洋銀行	1,835,949	
普通預金 空知信用金庫	156,695	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 北洋銀行〔石博〕	4,384,961	
現金・預金小計	9,389,814	
貯蔵品	252,188	
前払費用〔家賃〕	150,000	
未収収益〔模擬坑道電力料〕	361,973	
流動資産合計	10,153,975	
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,565,953	
有形固定資産小計	215,169	
敷金	50,000	
出資金〔空知信用金庫〕	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計	315,169	
資産合計	10,469,144	
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金〔電力料・社会保険他〕	1,073,784	
未払費用	546,328	
預り金	510,855	
未払い法人税	822,800	
未払い消費税	707,800	
流動負債合計	3,661,567	
2 固定負債	0	
固定負債合計	0	
負債合計	3,661,567	
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産	8,738,747	
2 当期正味財産増加額	△ 1,931,170	
正味財産合計	6,807,577	
負債および正味財産	10,469,144	

2023年 その他事業会計 貸借対照表
2023年12月31日現在

該当事項なし

2023年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書
2023年1月1日～2023年12月31日

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費		2,307,797
2. 受取寄付金		
受取寄付金		207,470
3. 事業収益		
商品・書籍・飲食販売	2,793,868	
ガイドツアー	957,990	
業務受託	4,775,160	
指定管理	11,504,000	
入館料	10,513,540	
受託調査	999,900	
その他	183,610	31,728,068
4. 助成金		
5. 補助金		
地域づくり総合交付金		1,300,000
夕張コロナ対策補助		171,953
6. その他収益		
受取利息	2,109	
雑収益	239,430	241,539
経常収益合計		<u>35,956,827</u>
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	12,601,686	
法定福利費	1,703,288	
雑給	770,505	
人件費計	15,075,479	
(2)その他経費		
売上原価	2,121,668	
謝金	3,184,748	
通信費	567,976	
光熱用水費	4,018,366	
旅費交通費	1,191,084	
旅費日当	75,000	
広告宣伝費	1,520	
交際費	121,976	
会議費	82,146	
消耗品費	651,945	
図書費	67,200	
印刷費	414,486	
修繕費	652,520	
地代家賃	1,151,760	
保険料	364,534	

委託料	3,090,940		
租税公課	1,403,158		
諸会費	154,500		
賃借料	745,234		
支払手数料	148,331		
雑費	158,306		
減価償却費	53,792		
その他経費計	20,421,190		
事業費合計		35,496,669	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	0		
役員報酬	1,380,000		
人件費計	1,380,000		
(2)その他経費			
謝金	0		
通信費	0		
旅費交通費	82,920		
会議費	48,269		
消耗品費	57,324		
租税公課			
支払手数料	0		
その他経費計	188,513		
管理費合計		1,568,513	
経常費用合計			37,065,182
Ⅲ 経常外損益			0
税引前当期正味財産増加額			△ 1,108,355
法人税・住民税・事業税			822,815
当期正味財産増減額			△ 1,931,170
前期繰越正味財産額			8,738,747
当期正味財産合計			6,807,577

2023年その他事業会計 活動計算書
2023年1月1日～2023年12月31日

該当事項なし

監査報告書

2024年02月01日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 平野 義文 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事

加藤 愉朗



監事

三上 秀雄



2023年01月01日から2023年12月31日までの2023年（第17期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

第3号議案 2024年度活動計画（2024年1月1日～12月31日）

日本遺産「炭鉄港」の盛り上がりと共に当NPOの認知度と社会的責任も高まってきていると感じています。その中でさらに活動を活発化できるよう、これまで培ってきた活動を礎とし、会員の皆様と共に力を合わせ、当NPOの使命でもある「炭鉱遺産を活用した地域活性化」を目指し、積極的な活動の推進と更なる質の向上を図っていきます。

■出版事業

- ・炭鉄港公式ガイドテキストをベースに、新たなガイドブックの出版を目指す
- ・夕張市石炭博物館公式ガイドブックの出版を目指す

■動画配信

- ・当NPOの活動を身近に感じていただくと共に、炭鉄港等の価値の向上に資するYouTube動画配信を継続実施

■炭鉱遺産事業

- ・ぷらぷらまち歩きの実施
- ・奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み
- ・各種活動団体等との連携

■学術支援事業

- ・歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流
- ・地域シンクタンクとしての展開
- ・教育機関との連携
- ・日本遺産登録再審査に向けた支援
- ・各種フォーラム等の開催
- ・炭鉄港まちづくり講座の継続

■市民団体連携事業

- ・《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携協力
- ・国内外の関係者・団体への対応

■拠点活動事業

- ・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実と認知度向上
- ・会員による運営支援の試行

■ヘリテージツーリズム事業

- ・必要に応じた協力を実施

■石炭博物館事業

- ・博物館の体制強化
- ・博物館の質的充実に向けた展開（展示内容の拡充など）
- ・模擬坑道再建に向けた支援及び再開準備
- ・夕張市内の回遊・入込向上に向けた取り組み

- ・ 特別企画展「(仮)夕張鉄道 100 年」ほか各種展示及びイベントの開催
- ・ 館内ガイドツアー、まち歩きツアー等の開催
- ・ 教育関係行事等への支援・協力

■会務

- ・ 会員サービスの実施（会員特典の充実、研修の機会）
- ・ 各種会員拡大に向けた取り組み
- ・ そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター開設 15 周年

第4号議案 2024年度活動予算

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書
2024年1月1日～2024年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,300,000	運営500、一般700、賛助1,100
2. 受取寄付金	200,000	
3. 事業収益	25,500,000	物販2,500、CM22,000、ツアー1,000
4. 受託業務	5,800,000	三笠調査1,000、地域おこし4,800
5. 補助金	600,000	道地域づくり総合交付金600
6. 受取利息	0	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	34,400,000	
II 経常費用		
1 事業費		
人件費	13,620,000	MC5,000、CM8,620
経費 出版事業	200,000	仕入書籍売上原価50
遺産保全活用事業	200,000	
学術支援事業	800,000	三笠市調査700
市民団体連携事業	200,000	MC原価、市民活動支援
拠点施設運営事業	2,400,000	光熱用水費など経常経費
炭鉄港ネットワーク事業	1,000,000	
石炭博物館事業	10,500,000	
事業費小計	28,920,000	
2 管理費		
人件費	1,380,000	
その他経費	3,100,000	会議旅費100、消費税1400、事務委託1,600
管理費小計	4,480,000	
経常費用合計	33,400,000	
法人税・住民税・事業税	1,000,000	
当期正味財産増加額	0	
前期繰越正味財産額	6,696,677	
当期正味財産合計	6,696,677	

2024年その他事業会計 収支予算書
2024年1月1日～2024年12月31日

該当事項なし

役員補欠選任の件について

このことについて、次のとおり提案する。

役員名	補選者氏名	所属団体等	退任者氏名
理事	松田 建夫	自営業	熊谷 隆文

- ◎ 補欠選任の理由
現役員の退任による。
- ◎ 補選された理事及び監事の任期は、前任者の任期の満了する時（令和7年度定時総会）までとする。（定款第15条）

<参考（定款関係条文抜粋）>

第13条（役員を選任）
理事は、総会において運営会員の中から選任する。

第15条（役員任期）
役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合は、役員任期は、任期の末日後最初に開催された総会の終結のときまでとする。
3 補欠または増員による役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする